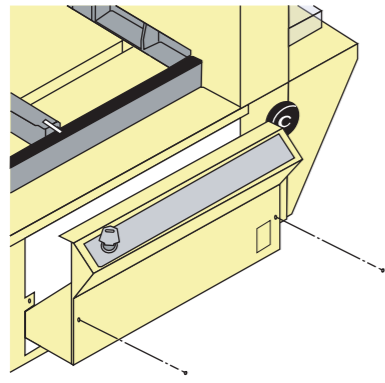


スチールベルト交換 EN-39・EN-43

この修理は、ごくまれな修理ですが、お客様ご自身もしくは販売店の方々用にご用意させて頂きました。

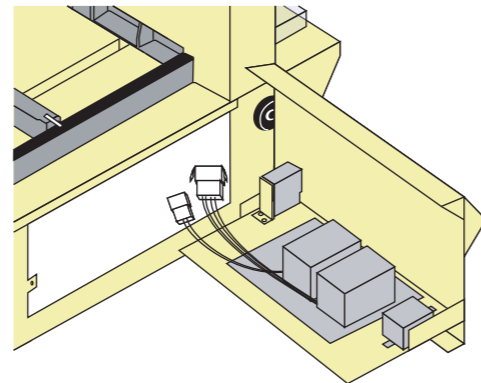
【使用工具】 プラスドライバー・8mmスパナ・13mmスパナ・8mm六角レンチ

1



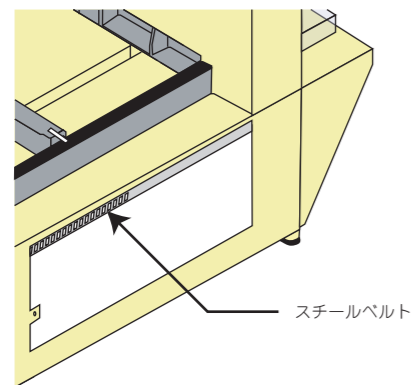
本体の前面パネルをプラスドライバーにて緩め、前面パネルを引き抜きます。

2



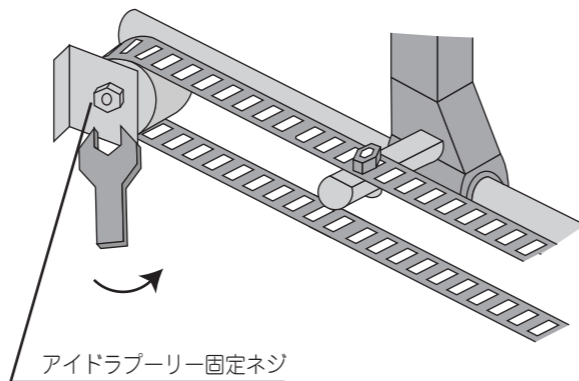
中に配線等がありますのでコネクタを2箇所抜いてください。

3



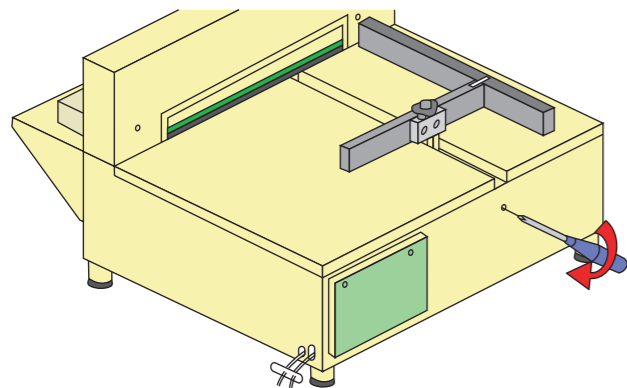
機械内部にスチールベルトが見えます。

4



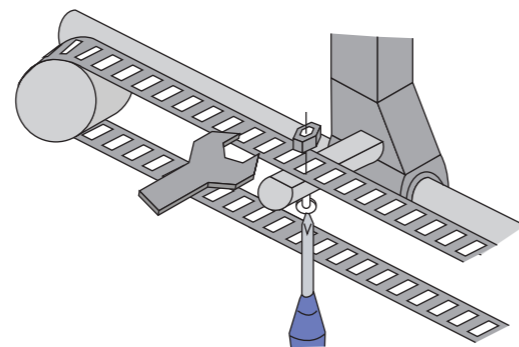
アイドラプーリー固定ネジを13mmスパナにて緩めて下さい。

5



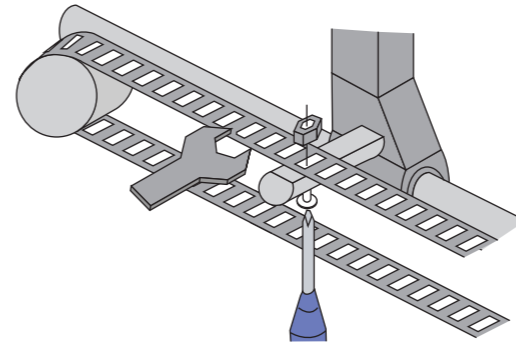
本体左側のベルト引きネジを1~2回転緩めてください。

6



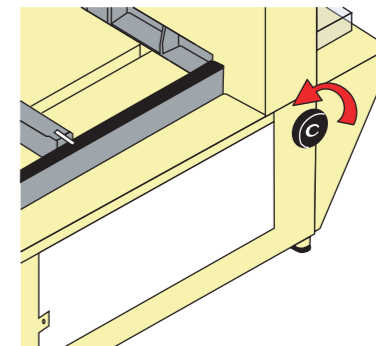
スチールベルト固定ネジをプラスドライバーで固定しながら8mmスパナにてベルト固定ナットを外し、スチールベルトを取り除いてください。

7



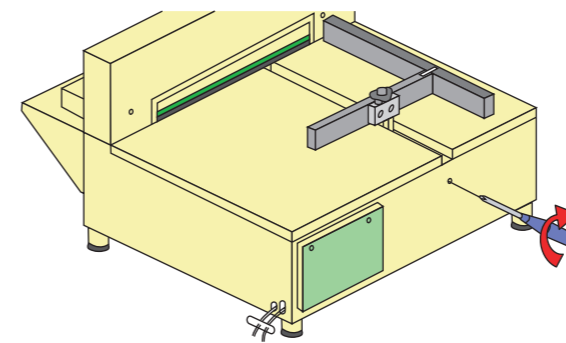
新しいスチールベルトを同じ様にかけ、軽くナットを締めます。

8



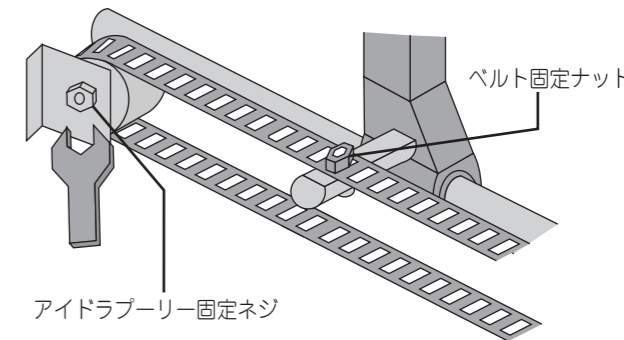
紙当定規調整つまみを動かしてみます。紙当定規がシャフト上を軽く動かない様であれば、シャフトに油等を含ませた布を使い拭いてください。

9



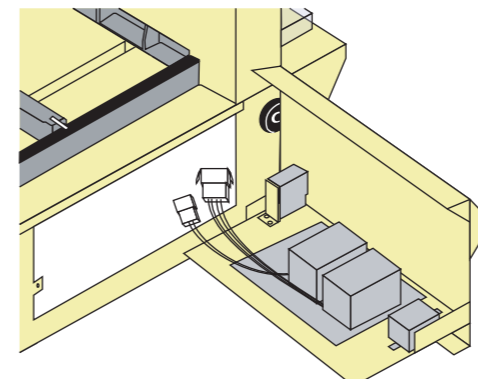
次にベルト引きねじを時計回りに締めて、紙当定規がスムーズに動作するように張ります。

10



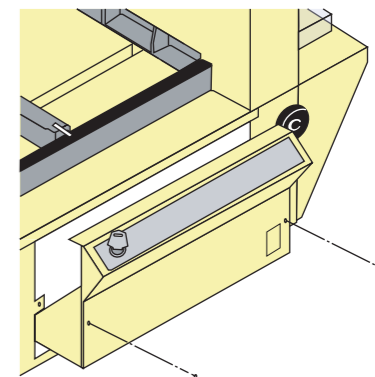
ベルトが張り、紙当定規調整つまみで動きがスムーズな事を確認し、アイドラプーリー固定ネジ及び、ベルト固定ナットを締めてください。

11



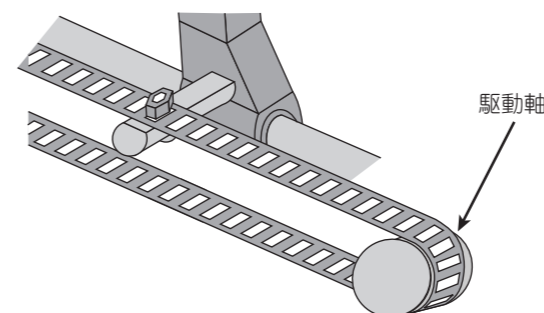
配線のコネクタをしっかりと組み付け、本体前面パネルを取り付けてください。

12



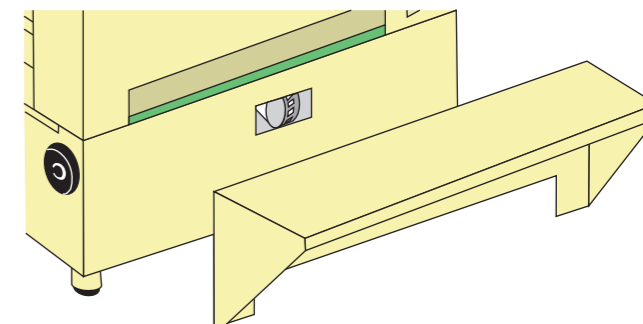
パネルのねじを取り付けて、終了です。

13



紙当定規が紙当定規つまみでうまく動かない場合は、駆動軸側のゴムが磨り減ってる場合があります。

14



その場合、スチールベルトを交換する前にサイドテーブルを外し、駆動軸のゴムを交換してください。